



千葉県PRマスコット
キャラクター「チーパン」
千葉県許諾 第A3-15号



ちばで見も 電車&飛行機

Trains and planes seen in Chiba

第15回



- 東武鉄道
- 6000系
- 8000系

8000系
東武アーバンパークライン
(初石駅～流山おおたかの森駅間)

ちばで見ぶ 電車&飛行機



60000系 東武アーバンパークライン(梅郷駅～運河駅間)

人と環境にやさしい車両をコンセプトに2013年に登場

60000系

東武鉄道60000系車両がデビューしたのは2013年。東武アーバンパークライン(野田線)で運転を開始した通勤形電車です。それまで長らく活躍してきた8000系の置き換え用として導入されました。

実は東武鉄道の新型通勤形車両が東武アーバンパークラインへ直接投入されるのは初めてのことで、この車両が登場するまでは、他路線から転属してきた8000系や東武鉄道の他線(伊勢崎線・東上線等)から転入してきた旧型車両ばかりが使用されていました。そのため東武アーバンパークラインでの新型車両の登場は多くの鉄道ファンを驚かせました。

2004年に導入を開始した50000系を基本にした車両で「人と環境にやさしい車両」をコンセプトに新たに設計されました。

車体はアルミ合金を使用して軽量化し、室内灯および前照灯にLED照明を採用することにより省エネ化を図り、従来の8000系車両に比べ電気使用量を約50%削減しています。

またモーターについても、密閉構造のものを採用することで車両内外への騒音を低減させ、環境に配慮した仕様となっています。

外装の多くの部分は無塗装アルミのシルバー色となっていますが、先頭車前面下部と各車側面上部には、東武グループのグループロゴカラーであるフューチャーブルーを帯状に、ドア脇には視認性の高いブライトグリーンを配し、東武アーバンパークラインの沿線に広がる豊かな自然環境と調和したデザインとなっています。

また室内には案内用LCDや東武初のWi-Fiアクセスポイントを設置し、全面ガラスの妻面扉には沿線各市町で制定されている花や木をデザインしています。シートの色調は車体同様爽やかなブルーの表地です。

最高速度は120km/h。



60000系 東武アーバンパークライン(新柏駅～増尾駅間)

10030型

10030型は1988年に登場した通勤形車両です。

9000系や20000系を基本に10000型の車体や台車をマイナーチェンジした車両で、そのため10000型に似たデザインとなっています。灯具のデザインが変更され、ヘッドライトが外側でテールライトが内側の配列になっているのが外観的な特徴です。

1992年から登場した10030型50番台ではクーラーカバーの形状が一体型に変更、車椅子スペースが設置されました。また車両の軽量化にも効果のあるシングルアームパンタグラフ(パンタグラフの上に伸びるアームが1本のもの)が東武鉄道で初めて採用されました。

10030型は2010年から修繕工事が開始され、車内のリニューアル、前照灯の変更、排障器の設置、行き先表示機にフルカラーLEDが採用されています。

外装についても、2013年4月からは60000系と同様のフューチャーブルーとブライトグリーンのラインへ変更され、東武アーバンパークラインでも運用が開始されました。



10030型
東武アーバンパークライン
(六実駅～新鎌ヶ谷駅間)



8000系 東武アーバンパークライン(南桜井駅～川間駅間)

長らく東武鉄道全線で活躍した東武の「顔」ともいえる車両

8000系

東武鉄道の8000系は7800系の後継車として1963年に登場した車両です。

1963年と言えば1回目の東京五輪の前年にあたる年。その後20年間にわたり導入が続き、1つの車両の形式としては私鉄で最多の712両が製造されました。当時の通勤電車では珍しかった「空気ばね」(エアサスペンション)を採用する一方、減速度の高い「発電ブレーキ」を搭載せず、通常のブレーキを強力にして走行性能を確保するなどの方法でコストと性能を両立させました。室内のロングシートは長距離利用者に配慮した造りで、今も座り心地には定評があります。

長さ約20mの車体に2枚の扉が両側に開く「両開き」のドアが4つ。車内は窓を背にして座るロングシート。8000系は今ではお馴染みになった日本の通勤電車の標準的スタイルの車両です。

東京・埼玉・千葉・群馬・栃木の1都4県に路線網を張り巡らせている東武鉄道のほとんど全線で活躍し、長らく東武鉄道の顔ともいえる存在でした。

8000系の正式な形式は「8000型」と「8500型」。東武鉄道では派生タイプが存在する形式については「型」と表記されていて、4両・6両・8両編成が8000型、2両編成が8500型の名称となっています。

長らく東武線の顔として走り続けてきた8000系も、近年は引退が進みつつあります。浅草～館林・南栗橋間からは2010年に撤退し、2015年1月には東上線の池袋～小川町間から引退。ただ現在も数は減ったとはいえ支線やローカル区間、そして東武アーバンパークラインなどではまだまだ現役に活躍中。また今回裏面でご紹介している「東武博物館」では製造当初の原型をとどめる6両編成を走行できる状態で保存しており、東武鉄道の8000系に対する深い愛情がうかがえます。

最高速度は110km/h。



8000系
東武アーバンパークライン(初石駅～流山おおたかの森駅間)

■ 撮影ポイント

●馬込沢駅～塚田駅間

塚田駅付近の坂を上りきったあたりから塚田駅方向にみたり列車を撮影。60000系デビューのステッカーが貼られた当時の写真。



60000系(2013年7月撮影)

●塚田駅～新船橋駅間

新船橋駅からの高架を降りてカーブしてくる上りの列車を撮影。後ろのカラフルな建物を入れると映える。



8000系

●野田市駅～梅郷駅間

高架化された線路が平成やよい通り付近で平地に下りてくるあたりから撮影。写真は方向幕をLED化したリニューアル編成。



10030型

マニア
必見!

東武鉄道の歴史の中で活躍した車両が 当時の姿で観られる迫力の空間



東武鉄道開業時の蒸気機関車B1形5号



東武鉄道初の電車デハ1形5号



関東平野をイメージした大パノラマ模型

東武博物館は、東武スカイツリーライン線の東向島駅高架下にある鉄道ファンなら絶対に行きたい場所。東武鉄道に関する車両や資料が展示されている博物館です。

東向島駅の改札を出ると、数十メートルですぐに博物館。入り口を入ると、いきなり目の前にB1形5号蒸気機関車の巨大な姿が現れます。

その隣には、東武鉄道初の電車デハ1形5号の姿も。さっそく乗り込んでみると、温かい明りに照らし出された車内はまさに明治、大正の空間。映画の舞台に迷い込んだように錯覚するほど。

館内を奥に進んでいくと、魅力的な展示物が所狭しと並んでいます。愛称「ネコひげ」と呼ばれ東武日光・鬼怒川線特急として活躍した5700形5701号電車、東武鉄道初の電気機関車であるED101形101号電気機関車など、時代を感じさせる独特の重厚で丸みのあるデザインはどれもほれほれするほど素敵です。

1階の館内各所には、鉄道やバスのシミュレーターもあり、これも行列ができるほどの人気とのこと。また1階一番奥には、関東平野全体で活躍する東武鉄道の1日を再現した巨大なパノラマ模型があり、毎日5回パノラマショーが行われます。その車両の動く姿は本当にリアル。灯が

ともった車両が朝夕の薄暗い風景の中を走る姿はまさに感動もの。まるで自分が乗っているかのような感覚になります。

博物館は2階建てになっていて、2階にはテーブルと椅子が設置された広い休憩コーナーもあり、ここで展示車両を上から眺めながら持参のお弁当を食べることもできます。

実は皆さんに人気のスポットが2階の奥に。ウォッチングプロムナードという場所で、なんと東向島駅のホームの下に設置された窓から車両を眺めることができ、車両の下部を間近で眺めるとい、他では決して見ることでできない風景となっています。目の前に停車し、走りすぎる車両(車輪)はまさに迫力。ぜひ訪ねてほしいコーナーです。

来館者は平日であったせいか、お母さんと小さなお子さんが目立ち、お子さんが大喜びなのはもちろん、指導員のみなさんの解説を熱心に聞きながら大熱中で車両を眺めているお母さんの素晴らしい姿も見られました。鉄道の魅力、奥深し!

●問い合わせ／東武博物館

東京都墨田区東向島4-28-16 TEL.03-3614-8811

※営業時間等はホームページをご確認ください。
<https://www.tobu.co.jp/museum/>

Recommended Gourmet ★おすすめグルメ

幕張ベイタウンにあるちょっと大人の空間

『Cafe Carmin』カフェ カルマンは海浜幕張駅近く、幕張ベイタウン内にあるフレンチカフェ。スペシャルティ珈琲とNINA'Sの紅茶をはじめ、オリジナルのサンドウィッチやランチタイムの生パスタなども楽しむことができるお店。

店内はととても落ち着いた雰囲気です。木目の内装とシルバークレイの椅子がたまらなく魅力的な大人の空間を演出しています。

フリーWi-Fiも完備。ほっと一息つきたい時間やお買い物帰り、ワンちゃんのお散歩の途中などにもぜひ立ち寄りたっておきのお店です。



最上位のスペシャルティ珈琲豆を使用 生地やソースもオリジナルのピッツァ



店内は、木目に統一。落ち着いた大人の雰囲気

幕張ベイタウン カフェ カルマン Makuhari Café Carmin

千葉県美浜区打瀬2-14 パティオス11番街11号

TEL.043-216-3137

<https://www.cafe-carmin.com/>

●営業時間／8:00～19:00



「ちばで見る電車&飛行機」今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「ちばで見る電車&飛行機」の第15回をご覧ください。



今回ご紹介した、東武鉄道8000系。その車体が動く状態で保存されているのはどこでしょうか。次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① 鉄道博物館
- ② 東武博物館
- ③ スカイツリー

取材協力・撮影協力・写真提供／東武博物館、カフェ カルマン

確かな「きずな」を、未来へ。



ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌

検索

LINEからも「ちばで見る電車&飛行機」を配信しています。

LINE
公式アカウント



正解は→② 東武博物館

2023.3
(次回発行／2023年4月20日)